

河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野
平成29年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究	筑波大学 川島 宏一	b	マイタイムライン(MTL)の実効性を高めるための世帯類型化やMTL作りの教育コンテンツの作成など、研究は概ね順調に実施されている。今後、具体的行動に移せるように、情報を効果的に利用することに留意し研究を進展させたい。
概要	市民一人ひとりが水害時の避難行動計画を事前に準備する「みんなでタイムラインプロジェクト」が常総市域において、国と自治体が連携しながら進められており、同プロジェクトを市全域に展開し定着することが重要な課題となっている。本研究は同プロジェクトを常総市全域に実効性・持続可能性の高い形で展開していくための具体的な方策を解明することを目的とし、Web版のタイムラインノート及び訓練ツールの作成、同プロジェクトの効果検証シミュレーションなどを実施する。			
テーマ	豪雨による都市浸水のモニタリングと対策支援技術の開発	中部大学 武田 誠	a	内水氾濫(豪雨による都市浸水)モデルの開発が自治体と連携しながら着実に進捗しており、引き続き研究を推進する。
概要	流域では、大規模な洪水災害が生じる前に内水氾濫が生じることが多く、河川管理の立場からも、豪雨による都市浸水の対策は重要かつ喫緊の検討課題である。一般に、豪雨時の都市浸水や下水道の水理は計測されておらず、対策の検討のための重要なツールである浸水解析の妥当性評価も難しい。本研究では、愛知県春日井市の地蔵川流域を対象に、降雨情報の収集や、地表面および下水道内の水位の計測を行い、都市浸水をモニタリングする。さらに、浸水対策支援技術を開発・適用し、その課題を抽出する。			

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: 指摘事項に留意の上、引き続き研究を推進する。(指摘事項あり)
- c: 指摘事項を踏まえ研究計画を修正の上、研究を推進する。(指摘事項、条件付き)
- d: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。